おんせん県おおいた・別府型ドリームプロジェクト

（学校法人溝部学園）

H27	中核	

平成27年度「成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進」事業　事業計画書

1. 分野名

⑬観光	「その他」分野名	

2. 事業名称

おんせん県おおいた・別府型ドリームプロジェクト

3. 申請する職域プロジェクト

職域プロジェクト	（1） 職域プロジェクトA （「地域版学び直し教育プログラム」の開発・実証）	○
	（2） 職域プロジェクトB （「特色ある教育推進のための教育カリキュラム等」の開発・実証）	

※申請する取組いずれかひとつに「○」を記入すること。（大学院プログラムは別様式）

「女性の学び直し」に対応する場合、右欄チェック ✓

4. 代表機関

■ 代表法人（申請法人）等

法　人　名	学校法人　溝部学園
理 事 長 名	溝部　仁
学　校　名	別府溝部学園短期大学
所　在　地	〒 874-8567 大分県別府市亀川中央町29-10

■ 事業責任者（事業全体の統括責任者）

職　　名	地域連携センター所長　溝部学園短期大学教授
氏　　名	牧　昌生
電話番号	0977-66-0224
E－mail	chirenkei@bm.mizobe.ac.jp

■ 事務担当者（文部科学省との連絡担当者）

職　　名	特定非営利活動法人スクール・アドバイス・ネットワーク
氏　　名	生重 幸恵
電話番号	03-5347-2372
FAX番号	03-5347-2373
E－mail	ikushige@sanet.jp

5. 職域プロジェクトの構成機関・構成員等

（1）構成機関（機関として本事業に参画する学校・企業・団体等）

	構成機関（学校・団体・機関等）の名称	役割等	内諾	都道府県名
1	九州大学別府病院	中央委員・カリキュラム委員	○	大分県
2	NPO法人ハットウ・オンパク	中央委員・カリキュラム委員	○	大分県
3	別府市	中央委員・市政企画	○	大分県
4	大分県	県政企画・資格認定	○	大分県
5	別府市教育委員会	中央委員・義務教育企画	○	大分県
6	大分県中小企業家同友会	中央委員	○	大分県
7	別府市観光協会	中央委員・カリキュラム委員	○	大分県
8	別府市旅館ホテル組合	中央委員	○	大分県
9	別府商工会議所	中央委員	○	大分県
10	畑病院	カリキュラム委員	○	大分県
11	大分大学教育福祉科学部	カリキュラム委員	○	大分県
12	大分大学高等教育開発センター	事務局支援	○	大分県
13	大分県「協育」ネットワーク協議会	事務局支援	○	大分県
14	NPO法人大分県「協育」アドバイザーネット	事務局支援	○	大分県
15	別府溝部学園短期大学	中央委員・事務局	○	大分県

（2）構成員（委員）の氏名（上記（1）の機関から参画する者及び個人で本事業に参画する者等）

	氏名	所属・職名	役割等	内諾	都道府県名
1	前田　豊樹	九州大学別府病院准教授	中央委員会 委員長	○	大分県
2	野上　泰生	NPO法人ハットウ・オンパク運営室長	中央委員会 副委員長	○	大分県
3	鶴田　浩一郎	NPO法人ハットウ・オンパク代表理事	中央委員会 委員	○	大分県
4	長野　恭紘	別府市長	中央委員会 委員	○	大分県
5	阿部　邦和	大分県企画振興部　観光・地域局局長	中央委員会　委員	○	大分県
6	寺岡　悌二	別府市教育委員会教育長	中央委員会 委員	○	大分県
7	高野　浩子	大分県中小企業家同友会副代表理事	中央委員会 委員	○	大分県
8	中川　忠宣	大分大学高等教育開発センター教授	中央委員会 委員	○	大分県
9	斉藤　雅樹	東海大学教授	中央委員会 委員	○	静岡県
10	宮崎　博文	NPO法人別府温泉地球博物館研究所	中央委員会 委員	○	大分県
11	工藤　浩司	別府市観光協会総務課長補佐	中央委員会 委員	○	大分県
12	木村　大成	別府市旅館ホテル組合	中央委員会 委員	○	大分県
13	野口　一郎	別府商工会議所	中央委員会 委員	○	大分県
14	糸永　真由美	温泉コンシェルジュ養成授業　0期生	中央委員会 委員	○	大分県
15	溝部　仁	別府溝部学園短期大学長	中央委員会 委員	○	大分県

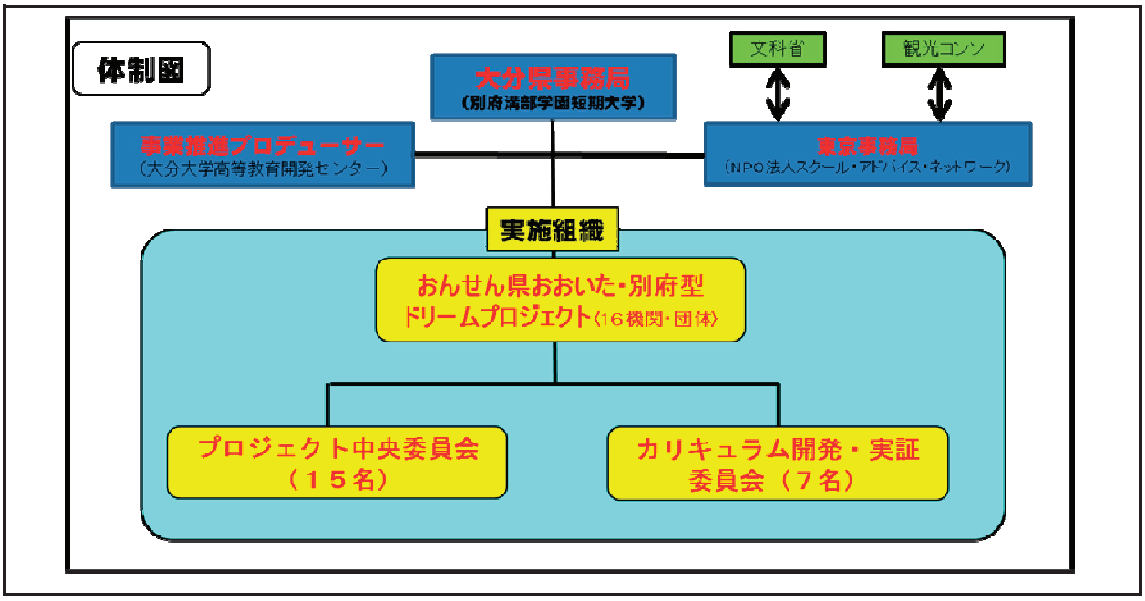
（2）-①カリキュラム開発・実証委員会

	氏名	所属・職名	役割等	内諾	都道府県名
1	前田　豊樹	九州大学別府病院准教授	カリキュラム開発・実証委員委員長	○	大分県
2	野上　泰生	NPO法人ハットウ・オンパク運営室長	カリキュラム開発・実証副委員長	○	大分県
3	工藤　浩司	別府市観光協会総務課長補佐	カリキュラム開発・実証委員	○	大分県
4	住田　実	大分大学教育福祉科学部教授	カリキュラム開発・実証委員	○	大分県
5	畑　洋一	畑病院医長・温泉と運動研究会会長	カリキュラム開発・実証委員	○	大分県
6	安達　美和子	NPO法人大分県「協育」アドバイザーネット	カリキュラム開発・実証委員	○	大分県
7	末田　加良子	地域活動家	カリキュラム開発・実証委員	○	大分県

（3）下部組織

名称（事務局及び事務局支援）				
氏名	所属・職名	役割等	内諾	都道府県名
牧　昌生	別府溝部学園短期大学	大分県事務局長	○	大分県
赤木　萌子	別府溝部学園短期大学	大分県事務局	○	大分県
安達　美和子	NPO法人大分県「協育」アドバイザーネット	大分県事務局	○	大分県
中川　忠宣	大分大学高等教育開発センター教授	事業推進プロデューサー	○	大分県
江口　清美	NPO法人大分県「協育」アドバイザーネット	運営支援	○	大分県
上原　政道	NPO法人大分県「協育」アドバイザーネット	運営支援	○	大分県
武本　幹雄	NPO法人大分県「協育」アドバイザーネット	運営支援	○	大分県
生重 幸恵	特定非営利活動法人スクール・アドバイス・ネットワーク	東京事務局長	○	東京都
井上　尚子	特定非営利活動法人スクール・アドバイス・ネットワーク	東京事務局	○	東京都
松崎　将太	特定非営利活動法人スクール・アドバイス・ネットワーク	東京事務局	○	東京都
長岡　力	株式会社リンクアンドイノベーション 代表取締役　中小企業診断士	会計	○	東京都

（4）事業の実施体制図（イメージ）



6. 事業の内容等

（1）事業の目的・概要

大分県別府市は、日本が世界に誇る温泉観光のトップリーダーであることから、本事業においては、観光客が求める「健康」「療養」「アンチエイジング」「美容」「ダイエット」について、産学官医民の各専門的領域の関係者が一体となった新たなテーマコミュニティを形成し、高等教育機関による新たな学習システムにより、”最高の癒やしと健康”を提供する『温泉コンシェルジュ』という中核的専門人材の育成を目的とする事業である。

（2）事業の実施意義や必要性について

① 当該分野における人材需要等の状況、それを踏まえた事業の実施意義

大分県別府市は日本一の温泉源、湧出量を誇る「おんせん県おおいた」の中心的な国際観光文化都市として、全国、さらには、世界の温泉観光のリーダー的存在を目指す地域である。

別府市が、日本を代表する温泉地という地域特性をより活かすためには、まちづくりや地域の活性化に課題を抱える行政や企業、地域活動を続ける組織・団体、さらに、高等教育機関や医療機関等の専門的領域の関係者が、その枠を超えて新しいテーマコミュニティを形成することが求められている。

”おんせん県おおいた・別府型ドリームプロジェクト”は、この考えを基盤に形成され、「健康」「療養」「アンチエイジング」「美容」「ダイエット」という長期滞在型観光客が求める”最高の癒やしと健康”を提供するための新たな学習システムと就労へ連動する基盤整備を目指している。

そのために、本事業の名称のとおり、社会が求める中核的専門人材の育成を高等教育機関において育成するものであり、その方策のモデル的検証を目指している。

サービスを提供する「総合世話係」の中でも、顧客が最も頼りとする「究極のパーソナルサービス」を提供する職業がコンシェルジュである。これに対して、「温泉コンシェルジュ」は、別府温泉をベースとした観光と最高の癒やしを提供するプログラム、及び、その総合的なおもてなしを提供する人材を指す。

そのために、「温泉コンシェルジュ」は、温泉の効果・効能や関連する各種法律等に関する知識等を踏まえ、総合的・個別的な温泉プログラムを提供する資質・能力の育成、、職場や他のコンシェルジュとネットワークを構築することができるコミュニケーション力を育成することが求められている。

②取組が求められている状況、本事業により推進する必要性

大分県別府市は世界に誇る天然資源である「温泉」をツーリズム振興の柱とし、これを別府独自の湯治文化や歴史的背景を盛り込んだローマ字の「ONSEN」という言葉で表現している。また、別府市は観光立市としての新たな魅力創出のため、市民憲章にもうたっている「お客さまをあたたかく迎えましょう」を実践し、ONSENツーリズムを別府市全庁体制で推進している。

この方向性を推進するため、本事業においては、別府市、別府市観光協会、大分大学、別府溝部学園短期大学、大分県中小企業家同友会、別府市観光協会、畑病院、NPOハットウ・オンパク、NPO大分県「協育」ネットワーク協議会、NPO法人BEPPU PROJECT、NPO法人スクールアドバイスネットワークという地域内外の産業団体・企業、行政、教育機関等が求めている観光客が何度も訪れたくなる観光都市「べっぷ」を目指すために、それぞれの視点から必要となる人材の育成を目指すことに意義がある。

また、別府市の産業就業者（平成22年）をみると、第１次産業就業者数が650人（1.2%）、第2次産業就業者数が7,627人（14.6%）、第3次産業就業者数が44,087人（84.2%）と、圧倒的に第3次産業への就業が高い。

しかしながら、これまで別府市における第3次産業を取り巻く環境は、長引く景気低迷、人口減少による需要減少、娯楽に対する消費者ニーズの高度化・多様化等といった外部環境に加え、団体客依存体質、過大投資による過剰債務、価格競争激化、後継者難といった内部環境があり、厳しい状況が続いていた。

だが、2003年から政府が取り組んでいる「官民一体となった訪日プロモーション（ビジット・ジャパン事業）」、さらに、アベノミクス誕生による「円安」、東アジアやASEAN等の急速な経済成長に対応した「ビザ要件の緩和」、「航空ネットワークの充実」等をはじめ、別府市としても、大型客船の誘致、海外での観光展出展、誘客プロモーション、広域観光の推進、東南アジア方面の市場開拓、広告宣伝強化等の独自の取組みを行っており、平成25年の観光入込客数は8,244,867 人（前年対比102.6%）、平成26年10月～12月の3ヶ月速報値においては、別府市宿泊観光客は110.7%、外国人宿泊観光客においては129.3%（ともに平成25年比）と増加しており、平成23年の東日本大震災発生以前の平成22年ベースまで回復している。

このような環境であることから、「温泉コンシェルジュ」に対する人材需要の高まりとともに、別府温泉・観光をPRする広報手段の充実など、本事業の推進が期待されている。

③取組実施にあたっての平成26年度までに実施された職域プロジェクト等の成果の活用方針、方法等

大分大学高等教育開発センターが推進主体となり、8名の中央委員、及び、12名のカリキュラム評価委員を招聘し、「おんせん県おおいた・別府型ドリームプロジェクト」を組織した。また、別府溝部学園短期大学においては、1年生科目として、「コンシェルジュとしての資質・能力・基礎知識の習得」、「別府に関する基礎知識の習得」、「おんせんの利用に関する学び」、「温泉と健康・医療に関する学び」、「別府温泉と観光の街づくりに関する学び」の5つの専門科目を設定し、別府溝部学園短期大学の授業カリキュラムとして実証実験を行った。

その成果をもとに、平成27年度から食物栄養学科「温泉コンシェルジュコース」を新設した。さらには、アプリ「おもてなし事典」を授業での活用や関係業種、旅行客の活用を推進していく。

（3）前年度までの取組概要・成果と本事業との継続性

（平成23年度事業）
・取組概要
・事業成果
・24年度事業との継続性・関連性（成果の活用含む）

（平成24年度事業）
・取組概要
・事業成果
・25年度事業との継続性・関連性（成果の活用含む）

（平成25年度事業）
・取組概要
8名から構成される「中央委員会」とその下部組織にあたる12名から構成される「カリキュラム評価委員会」の2つの委員会により、事業の進捗管理を行うとともに、” 温泉コンシェルジュ”に求められるカリキュラムの作成を行った。

・事業成果
平成25年度においては、九州大学別府病院前田豊樹准教授を委員長とした8名の中央委員会と、NPOハットウ・オンパク代表理事・ホテルニューツルタ社長である鶴田浩一郎氏を含む12名のカリキュラム評価委員を招聘し、「別府温泉コンシェルジュ」を養成するための科目設定、履修内容、授業計画、到達目標、指導者等のカリキュラムの作成を行った。

・26年度事業との継続性・関連性（成果の活用含む）
1年生科目として、1科目目：「温泉コンシェルジュの基礎」、2科目目：「別府の歴史と発展」、3科目目：「まちづくりと景観」、4科目目：「温泉学」、5科目目：「おもてなし演習」、2年生科目として、1科目目：「温泉の基礎」、2科目目：「温泉コンシェルジュ実習Ⅰ」、3科目目：「温泉コンシェルジュ実習Ⅱ」、4科目目：「温泉医療療養指導」、5科目目：「健康トレーニング」を設定し、平成26年度においては、1年生科目について、大学生及び社会人対象の授業カリキュラムとして実証実験を行うこととした。

（平成26年度事業）
・取組概要
平成25年度と同様、8名から構成される「中央委員会」とその下部組織にあたる12名から構成される「カリキュラム評価委員会」の2つの委員会の設置と、1年生科目の検証（評価規準の検証含む）、教材作成を行った。

・事業成果
1年生科目として5科目を短期大学の学生及び大分県内8大学で組織する単位認定制度の単位互換科目に設定した。また、社会人に対する履修証明制度（公開授業）としても実施し、単位認定を行うとともに120時間以上の履修者（10名）には別府溝部学園短期大学から「履修証明書」を付与した（実受講者人数25名）。
また、教材としての活用や関係者・旅行者の広報手段として4ヶ国語（5文字体）で「おもてなし事典」のアプリを作成した。

・本年度事業との継続性・関連性（成果を本年度の取組にどのように活用するのか）
本年度（平成27年度）事業は、別府溝部学園短期大学食物栄養学科に「温泉コンシェルジュコース」を新設し、短期大学の入学生を募集する。定員は20名である。

※平成26年度の成果の公開状況も記載すること（webページのアドレスも掲載）。
別府溝部学園短期大学：https://www.mizobe.ac.jp/onsen_concierge/index.html
大分大学高等教育開発センター：http://www.he.oita-u.ac.jp/
特定非営利活動法人スクールアドバイスネットワーク：http://www.sanet.jp/

（4）事業の成果目標

期待される活動指標(アウトプット)・成果目標及び成果実績(アウトカム)

・活動指標
→本事業は、“温泉コンシェルジュ”の養成・育成に向けたカリキュラムづくりを4ヶ年計画で実施しており、平成27年度はその三年目となる。

１年目（平成25年度）:「温泉コンシェルジュ」の養成・育成にはどのようなカリキュラムが適するのかを検討して、10科目の専門科目の設定と、それに関するカリキュラム、評価規準等の作成を行った。

２年目（平成26年度）:「温泉コンシェルジュ」に求められる1年生カリキュラムの実証授業により、その検証を行うと同時に、事業終盤には、フォーラムを開催し、「温泉コンシェルジュ」の活躍と必要性を全国に向けて周知した。また、“温泉コンシェルジュ”のに必要となる「おもてなし事典」を日本語、英語、中国語、韓国語で作成し（5文字体）、スマートフォンで操作できるようアプリ作成を行った。

３年目（平成27年度）:平成25年度に作成した2年生カリキュラムの実証授業を行い、そのフィードバックから課題・ノウハウを蓄積してとりまとめた上で、「温泉コンシェルジュ」の育成と就労への連動のベースとなる資料集を作成して全国に提供する。また、「温泉コンシェルジュ」の全国展開に必要となる「おもてなし事典」の基本機能を充実させると同時に、現場での操作性を高めるために外国人による母国語音声を付加するなど拡充させる。さらに、本事業の成果であると同時に、「温泉コンシェルジュ」の継続的な人材育成を図るため、別府溝部学園短期大学食物栄養学科に「温泉コンシェルジュコース」を新設し、今年度においては20名を募集する。

４年目（平成28年度）以降:「温泉コンシェルジュ」の全国展開を本格稼働させる。温泉の泉質はその主成分によって大きく10種に分類されるが、別府にはそのうちの8種が湧き出ることから、日本全国の温泉地域を支える「温泉コンシェルジュ」を別府で育成し、日本全国の温泉地で「温泉コンシェルジュ」が活躍する流れを創出する。さらには、全国各地の温泉地の「温泉コンシェルジュ」養成に関するアドバイスを行う。
温泉コンシェルジュ育成の成果を就労へ結びつけるために、温泉・観光・企業・団体等への周知・広報活動を行い、2年間での学びで成長した「温泉コンシェルジュ」の就労の開拓・開発の取組を行う。

・成果実績
→1年目はカリキュラムの作成数、2年目はカリキュラムに対する1年生科目に関する実証授業の検証（評価規準に対する到達度）、受講者の意見等の定性的評価からの効果とした。3年目は、2年生科目に関する実証授業の検証（評価規準に対する到達度）、受講者の意見等の定性的評価からの効果とする。さらに、「おもてなし事典」の利用実績を主要な成果実績とする。併せて、1年生科目、2年生科目の「授業DVD」を用いたeーラーニング教材を開発し、全国から学生を募集するための全国PRも重要な成果とする。

（5）事業の実施内容（※本事業の運用方針及び基本方針等を踏まえ具体的な取組内容を記載すること）

① 会議（目的、体制、開催回数等）
・中央委員会
本事業計画に対する進捗管理を図るために委員15名、全3回開催する。

・カリキュラム作成評価委員会
本事業で実施する2年生科目の実証授業やアンケート調査結果等を踏まえ、2年生科目の開発を図るために、2年生科目担当者7名で、全3回開催する。

② モデルカリキュラム基準、達成度評価、教材等作成（目的、規模、実施体制等）
＜モデルカリキュラム基準・達成度評価の作成＞
[目的]
平成26年度に実施した1年生科目と同様に、2年生科目が”標準モデルカリキュラム”としての目的を達成しているか評価とフィードバックを行い、その課題、ノウハウを蓄積し、全国的な標準モデルを1年生科目とともに提案する成果報告書としてとりまとめた上で全国に提供する。
[規模]
平成26年度に1年生の科目（5科目）を受講した別府溝部学園短期大学の学生（社会人学生含む）、及び、社会人への公開授業を120時間以上履修し、「履修証明書」を授与された社会人等
[評価規準]
10項目の「知識」、9項目の「問題解決力」、3項目の「適正」に分け、さらに「適性」は5項目の「対関係能力」、4項目の「自己開発能力」、10項目の「専門性」に大別し、「とてもよく学べた＝◎」、「学べた＝〇」、「学べなかった＝△」で評価付けする。
[実施方法]2年生科目5科目を実証する。
[概要]
授業検証やアンケート等により得られたカリキュラムの課題、問題点、成果を分析し、全 国の温泉地で活用できる教育プログラムの標準モデルを作成する。

＜『おもてなし事典』のバージョンアップに必要な用語、会話の追加や機能の向上＞
[目的]教材としての活用や、旅館・ホテル等の実際のおもてなし現場で有益なツールとなるようにバージョンアップを行う。
[規模]掲載するコンテンツ、操作性を含め、全体的な充実を図る。
[概要]平成26年度にスマートフォン向けアプリ「おもてなし事典」を開発したが、実証により不足している言葉やフレーズを確認し、その補完を図る。また、昨年度受講生から改善要望が多かった、英語、中国語、韓国語を母国語とする外国人から母国語による会話・発音の取り込みを図る。

＜社会人等向け学習環境の整備＞
1年生、2年生向け専門科目、全10科目の「e－ラーニング」等の教材を開発し、社会人等の学び直しの学習環境を整備する。そのため、1年生科目に加えて2年生科目の一部（再利用予定の科目とコマ）を収録する。

④ 実証等（目的、対象、規模、時期、手法、実施方法等）
＜2年生向けに作成したカリキュラムの実証＞
[目的]2年生向けに作成したカリキュラムの実証を通して、授業評価及び改善を行う。
[対象]平成26年度に1年生の科目（5科目）を受講した別府溝部学園短期大学の学生（社会人学生含む）、及び、社会人への公開授業を120時間以上履修し、「履修証明書」を授与された社会人、平成27年度前期に所定の1年生科目を履修した者等。

[規模]
「温泉の基礎」＝温泉の様々な利用を知り、別府における温泉産業、サービス、情報発信等を学ぶ。（時間数：講義15コマ　単位数：2単位）
「温泉コンシェルジュ実習Ⅰ」＝別府市内の地理や交通手段を学び、「おもてなし事典」を活用したイベントや温泉体験等の別府案内ができる力を育成する。（時間数：実習30コマ　単位数：2単位）
「温泉コンシェルジュ実習Ⅱ」＝別府温泉の観光・健康・医療・食等のコンシェルジュとしての総合的な企画プログラムを提案できる力を育成する。（時間数：実習30コマ　単位数：2単位）
「温泉医療療養指導」＝温泉による健康・医療について、温泉の様々な効能と泉質の関係を学ぶ。（時間数：講義15コマ　単位数：2単位）
「健康トレーニング」＝温泉を活用した健康トレーニングや温泉との関係に限らず広く癒しや健康増進のトレーニングプログラムを学ぶ。（時間数：講義15コマ　単位数：2単位）

[評価規準]
10項目の「知識」、9項目の「問題解決力」、3項目の「適正」に分け、さらに「適性」は5項目の「対人関係能力」、4項目の「自己開発能力」、10項目の「専門性」に大別し、「とてもよく学べた＝◎」、「学べた＝〇」、「学べなかった＝△」で評価付けする。

（6）事業成果及び事業終了後の方針（成果の活用、継続性・関連性、発展性　等）

（事業成果物）
①事業成果報告書：委員会も含め、事業実施のすべての内容を集約する。
②教育プログラムマニュアル：専門科目10科目について，全国の温泉地での教育プログラム作成の基本となるマニュアルを作成する。
③「おもてなし事典」：温泉コンシェルジュに求められる用語、外国語がスマートフォンで確認できるiOSとアンドロイドにより動作するアプリのバージョンアップを図る。
④授業内容収録DVD：平成26年度に1年生科目の全てを収録しており、平成27年度においては2年生科目の一部（再利用予定の科目とコマ）を収録する。

（成果の活用等）
①別府溝部学園短期大学、大分大学高等教育開発センター、特定非営利活動法人スクールアドバイスネットワークのホームページによりデータを公開する。また、製本した報告書については、関係機関への郵送配布し、事業周知を図る。
②教育プログラムマニュアルは、全国の温泉地に配布して、当地での教育プログラム作成のマニュアルとして活用してもらう。
③「おもてなし事典」はアプリで公開し、「温泉コンシェルジュ」等が日常的に活用できるようにする。
④授業のDVDは、学び直し、急遽の講師の未対応（休講等）、新しい講師の発掘（本校の教師や外部講師）に活用するとともに、公開講座や「e－ラーニング」等の教材として一定の授業映像を活用する。

（事業の継続）
①平成27年度から別府溝部学園短期大学食物栄養学科「温泉コンシェルジュコース」を開設し、定員20名の学生を募集するが、次年度以降も継続し募集する。将来的には募集定数の増員も視野に入れている。
②雇用創出のPR活動を市内、県内で行うとともに、全国へ拡大していく。

（7）「女性の学び直し」に対応した取組内容等

（事業実施体制、プログラム構成、環境配慮等、女性の学び直しに対応する取組内容等）
①女性の受講者状況
・平成26年度は受講生実人数25名（基礎科目）で平均年齢は49歳。内、女性は13名で女性の受講者の平均年齢は48．5歳であった。
・平成27年度は受講生実人数22名（短期大学の授業として開講している1年生の基礎科目の受講者と、本事業で後期に実施予定の2年生の応用科目の受講希望者）で平均年齢は49．7歳。内、女性は12名で平均年齢は43．6歳である。

②社会人の受講動機
受講動機をみると、別府温泉観光に関する新たな学びをしたいという動機はもちろんであるが、別府を出身地とし、別府温泉という地域資源を活かした就業や新規創業を検討しているという声が多いことから、産業界が求める人材ニーズを踏まえた教育プログラムを実証授業として実施することを予定している。

③「別府溝部学園短期大学オープンカレッジ（公開講座）」の開講
“女性の学び直し”を主な目的とした公開講座を実施する。女性の新たな就労の職種として「温泉コンシェルジュ」を知ってもらうため、3つのテーマについての講座を公開して学びなおしを促し、普段は家庭にいる女性等に向けての新たな学びの場と、就労への動機づけの機会を提供する。
テーマ①温泉コンシェルジュに関する講座（3講座）
テーマ②別府の歴史や発展、景観、温泉の分布に関する講座（3講座）
テーマ③温泉の成分や効能、入浴等に関する講座（3講座）
※3回講座・1日1テーマで計150分（50分×3講座）

④別府の観光産業に関わる人々に向けた温泉コンシェルジュの有用性を考えるセミナー
[目的]別府市を中心とした大分県内の観光産業に関わる経営者等に向けて、本事業を通じた教育による女性と若者を活用した地域活性化の取組みを発信するためのセミナーを2回開催する。
[対象]別府市商工会議所会員及び別府市旅館ホテル組合組合員を中心とした大分県内の観光産業に関わる経営者等
[規模]本事業で中核的な役割を担う委員から、本事業を通じて、教育を通した人づくりと地域活性化に結びついていくことの重要性についてセミナーを行う。また先進的な実践事例を持つ福井県福井市と沖縄県那覇市から講師を招聘し、その重要性について熟議する。

※「3．申請する職域プロジェクト」で、「女性の学び直し」対応欄

「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進事業」

おんせん県おおいた
別府型ドリームプロジェクト

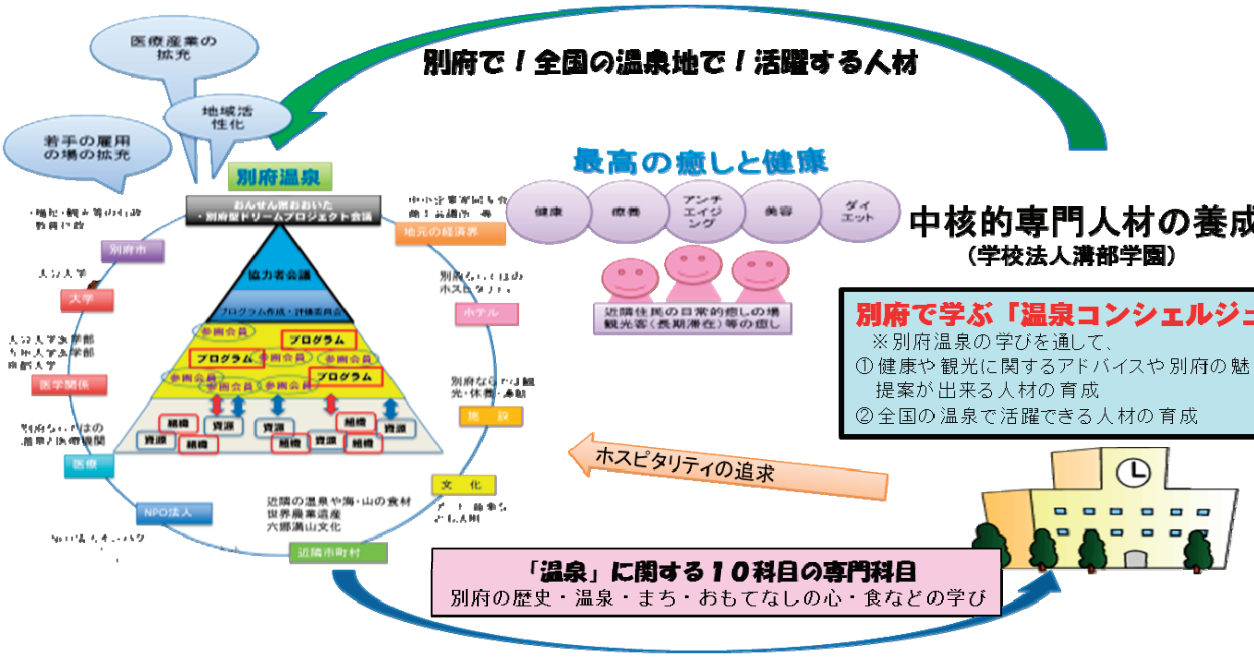
[実施組織]

おんせん県おおいた・別府型ドリームプロジェクト
【推進主体】大分大学高等教育開発センター
【育成機関】別府溝部学園短期大学（事業受託機関）



別府市扇山周辺の湯煙

おんせん県おおいた・別府型ドリームプロジェクト概要



【観光分野　職域プロジェクト】
平成25年度「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進」
おんせん県おおいた・別府型ドリームプロジェクト
（大分大学、溝部学園等）

目指すレベル：（２）※但し社会人学生は（３）
①職場や他のコンシェルジュとネットワークを構成して、「温泉をベースとしたコンシェルジュ」として顧客に対応するサービスを提供できる知識や情報を取得する。
②接客の中心メンバーとして、問題解決力を発揮して創意工夫を凝らしたプログラムの提供などができる。
③様々な研修やネットワークをとおして、専門性を生かした新しいプログラムを提供する業務を遂行しようとする。

【1．温泉コンシェルジュ専門科目】

必要な学び	科目名		到達目標（別府温泉コンシェルジュとしての専門性）
コンシェルジュの基礎知識	温泉コンシェルジュ基礎	講義	温泉コンシェルジュに求められるものを理解し、別府の魅力を提供する総合的な接客サービスができる。
別府に関する基礎知識	別府の歴史と文化	講義	別府の歴史・人物・文化・自然に関する一定の知識を持ち、各種資料による別府の紹介ができる。
別府に関する基礎知識	まちづくりと景観	講義	別府のまちづくりと景観について一定の知識を持ち、他の地域と比較した特色を学ぶ。
温泉の利用に関する学び	温泉学	講義	温泉の泉質や効能等の基礎知識を学ぶとともに、温泉を活用した産業、世界の温泉情報を説明できる。
コンシェルジュの基礎知識	おもてなし演習	演習	宿泊施設における職能別の職務を体験し、宿泊施設の業務と、業務ごとのおもてなしの心を学ぶ
温泉の利用に関する学び	別府で学ぶ温泉の基礎	講義	温泉の様々な利用を知り、別府における温泉産業、サービス、情報発信等を説明できる。
別府温泉と観光の街づくりの学び	温泉コンシェルジュ実習Ⅰ	演習	別府市内の地理や交通手段を学び、温泉を活用した・PRするイベントや温泉体験等の別府案内ができる。
別府温泉と観光の街づくりの学び	温泉コンシェルジュ実習Ⅱ	演習	別府温泉の観光・健康・医療・食等のコンシェルジュとしての総合的な企画プログラムを提案できる。
温泉と健康・医療の学ぶ	温泉医療療養指導	講義	温泉による健康・医療について、温泉の様々な効能と泉質の関係を説明できる。
温泉と健康・医療の学ぶ	温泉トレーニング	講義	温泉を活用した健康トレーニングや温泉との関係に限らず広く癒しや健康増進のトレーニングプログラムを説明できる。

【観光分野　職域プロジェクト】
平成25年度「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進」
おんせん県おおいた・別府型ドリームプロジェクト
（大分大学、溝部学園等）

１年次：Ｈ２５年度：専門科目「カリキュラムの作成」

２年次：Ｈ２６年度：「学生の構成と単位認定」計画
○大学生の授業カリキュラムとしての実証検証を行う
１．１年生の科目（５科目）を実施する。
※短期大学の学生（社会人学生を含む）の選択科目として単位を認定する。
２．社会人への公開授業とする。
※１２０時間以上の履修は「履修証明制度」により認証する。

３年次以降：Ｈ２７年度：温泉コンシェルジュコース新設による短期大学入学生募集
１．Ｈ２７：食物栄養学科に「温泉コンシェルジュコース」を新設（学生定員２０名）
２．社会人は「社会人学生」又は「公開授業の受講」として受講可能
※インターンシプ（演習）は公開授業としない予定である。

専門科目のシラバス・カリキュラムの設定

【1．授業のねらい】
①授業をおこなう背景や求められているもの（こと）を記述する
②15時間の授業のねらいの概要及び、中心的なねらいを記述する

【2．具体的な到達目標】
①授業内容の括り毎に具体的な目標を記述する
②重要な資質・能力等を記述する
※評価規準一覧に対応させ、シラバスに記述

【3．授業の内容】
※授業内容の括り毎に記述し、各括りの項目を示す
【例】1．コンシェルジュに必要なもの（1時限～5時限）
2．（別府）温泉コンシェルジュに必要なもの（6時限～10時限）
3．顧客へのプログラムの提案（11時限～15時限）

【4．成績評価の方法と評価割合】
C:60点～/B:70点～/A:80点～/S:90点
①知識　②問題解決力　③適性　④その他　で記述する
①授業での知識：ペーパーテスト
②授業時の課題対応：ミニレポートや学習課題への対応
③適性：関係者での模擬接遇
④その他：責任感や積極性等の授業中の態度

【5．具体的な授業計画 】
①「3．授業の内容」に沿って、それぞれの授業内容を2～3ページで作成する
②内容ごとに授業者を記載する

【教育課程として設定すべき学習内容】

本事業で定義する「温泉コンシェルジュ」

職場や他のコンシェルジュとネットワークを構成して、「温泉をベースとしたコンシェルジュ」とした顧客への「総合世話係」であり、各種法律や温泉の効果・効能に関する知識を持ち、総合的、個別的な温泉プログラムを提供するサービスができる知識や情報、コミュニケーション力等を取得したコンシェルジュ。

参考:「別府温泉コンシェルジュ」とは

○本別府の温泉をベースにした観光と最高の癒しを提供できるプログラムの提供と総合的なおもてなしを提供する温泉コンシェルジュ。

１．コンシェルジュとしての資質・能力・基礎知識の習得

①温泉コンシェルジュに求められるものを学ぶ
②顧客の国の言葉を学ぶ
③思いやりの心とマナーを学ぶ
④体験を通して「温泉コンシェルジュの資質」を学ぶ

２．別府に関する基礎知識の習得

①別府を学ぶ（歴史・人・文化・自然）
②別府の街づくりを学ぶ

３．温泉の利用に関する学び

①温泉を学ぶ
②温泉と産業を学ぶ
③温泉と健康・医療を学ぶ

４．温泉と健康・医療に関する学び

①別府温泉と健康・医療の取り組みを学ぶ
②別府で学ぶ健康づくり

５．別府温泉と観光の街づくりに関する学び

①別府で学ぶ温泉の基礎
②街づくり体験を通して「別府温泉コンシェルジュの資質」を学ぶ
③別府からの情報発信を学ぶ

1年生科目の授業検証

1．「評価規準」評価結果

2．「到達目標」評価結果

3．各科目における目標達成に関する受講者の評価

4．各科目におけるアンケート結果

5．受講者が紹介する「別府の魅力」（授業での成果物）

6．授業資料（市内学習コース表・模擬面接質問）

「評 価 規 準」評 価 結 果

①1年生科目の各授業で「よく学べた＝◎」「学べた＝○」「分からない≒空欄」を記入した割合（述べ回答数58）
②評価規準の黄色塗りが1年生科目、白塗りが2年生科目で評価する学習内容である。
※多くの項目が2年生科目と重複しており、特に「学べた割合」が80%以下の規準は2年生科目の重点的な内容となっているものが多い。

		◎	○	空欄	割合
A 知識	①別府の歴史・人物・文化・自然に関する一定の知識がある。	16	37	5	91.4
	②別府の街づくりや特色ある産業についての一定の知識がある。	14	37	7	87.9
	③温泉の泉質や効能等の基礎知識がある。	15	29	14	75.9
	④日本の接客業における職務ごとや総合的なおもてなしの心や業務が分かる。	12	27	19	67.2
	⑤温泉コンシェルジュに求められるものを理解している。	16	40	2	96.6
	⑥温泉の様々な利用に関する温泉産業、サービス等の一定の知識がある。	10	29	19	67.2
	⑦別府市内の地理や交通手段の知識がある。	13	39	6	89.6
	⑧別府温泉の観光・健康・医療・食等を総合した企画ができる。				
	⑨温泉による健康・医療について、温泉の様々な効能と泉質の関係の知識がある。				
	⑩温泉を活用した健康トレーニングや、温泉との関係に限らず広く癒しや健康増進に関する知識がある。				
B 問題解決力	①考え、生み出す力がある。（企画力・コンセプトワーク・柔軟な思考力）	19	29	10	82.8
	②物事をわかりやすく説明して伝えることができる。（プレゼンテーション能力）	16	28	14	75.9
	③情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる。（論理的思考力）	10	34	14	75.9
	④科学的な根拠（統計・分析等）に基づいて現象を分析・理解し表現することができる。	4	31	24	58.6
	⑤問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を確実に解決できる。	7	34	17	70.7
	⑥多様な情報を収集・分析して適切に判断して効果的に活用できる。	10	34	14	75.9
	⑦中長期的な視野に立ち「グランドデザイン」や「戦略」を立案できる。				
	⑧地域の目指す方向に照らして、顧客へのプランを企画できる。				
	⑨地域への理解に基づいて地域社会の置かれている状況を読み解くことができる。				

C適正	対人関係能力	①他人の話に耳をよく傾けることができる。	30	23	5	91.4
		②他者を理解し、多様な価値観を受容することができる。(コミュニケーション力)	25	27	6	89.6
		③信頼関係を築き、親和的な態度で接することができる。。	26	24	8	86.2
		④職場や地域での人的ネットワークを構築し、活用することができる。。(ネットワーク力)	12	29	17	70.7
		⑤人々を説得し、動かすことができる。(リーダーシップ)				
	自己開発能力	⑥自分で選び、決定し、行動することができる。	22	24	12	79.3
		⑦自分の行動によって生じる責任を自分で背負うことができる。	22	24	12	79.3
		⑧多様な文化や価値観の中で状況を改善しようとすることができる。	18	28	12	79.3
		⑨既存の枠組み(態度・慣習・慣例等)にとらわれず、新たな変革を起こそうとすることができる	11	26	21	63.8
	専門性	⑩知識を生かし、職場や地域でのネットワークを活用した、より良いプログラムを提供をしようと努力する。	12	31	15	74.1
		⑪別府の街づくりや特色ある産業について他の地域と比較するなどして、特色を説明できる。				
		⑫温泉を活用した産業、世界の温泉情報を説明できる。				
		⑬日本や世界のおもてなしの心と作法(マナー)を基にした、窓口業務としての接客サービスができる。				
		⑭別府の魅力を提供する総合的な接客サービスができる。				
		⑮別府における温泉産業、サービス、情報発信等を説明できる。	5	41	12	79.3
		⑯温泉を活用した・PRするイベントや温泉体験等の別府案内ができる。	12	31	15	74.1
		⑰別府温泉の観光・健康・医療・食等の総合的な企画プログラムを提案できる。				
		⑱温泉による健康・医療について、温泉の様々な効能と泉質の関係を説明できる。				
		⑲温泉を活用した健康トレーニングや温泉との関係に限らず広く癒しや健康増進のトレーニングに関するプログラムを説明できる。				



<会場>　別府国際コンベンションセンター／ビーコンプラザ(中会議室)

〒874-0828 大分県別府市山の手町12－1

※受付:13:00～(1F中会議室入口)

(対象者)行政関係者/旅館業・商工業・観光業関係者/まちづくり活動者/温泉コンシェルジュに関心がある方等

シンポジウムテーマ「「温泉コンシェルジュ」を考える」

<基調提案>

「コンシェルジュとしての経験から提案する～別府型 心に届けるおもてなし～」

講師　角田 陽子氏(セルリアンタワー東急ホテル コンシェルジュ)

<シンポジウム>(講師を交えて、登壇者と参加者が一緒になって「温泉コンシェルジュ」を考えます。)

登壇者(予定)　:別府市行政関係者/旅館業・商工業・観光業関係者/プロジェクト関係者/受講者等

アドバイザー　:角田　陽子氏(セルリアンタワー東急ホテル コンシェルジュ)

コーディネーター:生重　幸 恵 氏(キャリア教育コーディネーターネットワーク協議会代表理事)

＊別府溝部学園短期大学が平成27年度に新設する「温泉コンシェルジュコース」では、10科目の専門科目で温泉コンシェルジュとして必要な学び や、外国語、介護、食物栄養等の学びを含めて、短期大学として必要な単位を履修して卒業します。
＊シンポジウムでは人材育成と就労についてのマッチングがどのように考えられるかなどをディスカッションします。



第〇〇〇〇〇号

履修証明書

〇〇〇〇 殿

〇〇年〇月〇日生

学校教育法第百五条の規定に基づき、本学所定の「温泉コンシェルジュ養成プログラム基礎科目」（計百二十時間）を修めたことをここに証する。

プログラムの概要　温泉コンシェルジュに必要な、温泉都市としての発達の歴史、温泉の効果・効能に関する知識、顧客への最高のおもてなしができる心やマナーの習得など、温泉をベースとした総合世話係としての基礎的な学び。

平成〇〇年　〇月〇日

別府溝部学園短期大学

学長　溝部　仁

SAMPLE

4部　教材等成果物資料

1．授業等のDVDの作成

2．アプリ「おもてなし事典」（5か国語）の作成

別府を学び、楽しむための事典
温泉コンシェルジュが提供する　別府八湯おもてなし事典



目　次

1．別府発温泉コンシェルジュについて

英　語	1．About Beppu Onsen Concierges
韓国語	1.(벳푸)온천컨시어지에 대하여
中国簡体	1．关于别府独创温泉百事通
中国繁体	1．關於起源自別府的溫泉百事通

2．別府発温泉コンシェルジュが紹介する別府の魅力
2．Attractions of Beppu presented by Onsen Concierges
2.(벳푸)온천컨시어지가 소개하는 벳푸의 매력
2．别府独创温泉百事通来介绍别府的魅力
2．起源於別府的溫泉百事通所介紹的別府之魅力
以下、省略

温泉コンシェルジュが提供する「別府八湯　おもてなし事典」

1．登録会社
①アップル社「App Store」
②グーグル社「Play ストア」（Android マーケットより名称変更）

2．一般公開
①期日：平成２７年２月２５日
②料金：無料

3．アプリのインストール方法

- iOS 端末の場合
  1．「App Store」を起動
  2．「別府八湯 おもてなし事典」で検索（「八湯」と「おもてなし」の間に半角ｽﾍﾟｰｽ）
  3．以下のアイコンを選択して、インストール
- Android 端末の場合
  1．「Play ストア」を起動
  2．「別府八湯 おもてなし事典」で検索（「八湯」と「おもてなし」の間に半角ｽﾍﾟｰｽ）
  3．以下のアイコンを選択して、インストール

4．「別府八湯 おもてなし事典」
アプリのアイコン



目　　次

１．別府発温泉コンシェルジュについて
２．別府発温泉コンシェルジュが紹介する別府の魅力
（１）写真で紹介する別府の魅力
（２）発展の「歴史」から観る別府の魅力
（３）「自然」「文化」「産業」「人」から観る別府の魅力
３．（別府）温泉の知識（魅力）
（１）別府温泉の特徴
（２）安心な温泉入浴方法
（３）温泉入浴の効果
（４）温泉プールの魅力
４．おもてなしに大切な用語と会話
（１）ビジネス用語編
（２）ビジネス会話編
（３）温泉専門用語解説偏
５．温泉コンシェルジュ養成へのご案内

１．（別府）温泉コンシェルジュについて

（１）温泉コンシェルジュって？

旅行者のさまざまな質問に答え、満足だけでなく“感動”を与えることをミッションとする「よろず相談係」です。旅行者にとって、その土地で最も頼りになる存在として次の役割を果たします。

英語　韓国語　中国語簡体　中国語繁体　日本語詳細説明

（２）コンシェルジュに求められること

何事にも冷静に対応し、お客様一人一人に最も適した情報を正確に、迅速に、笑顔と優しさと思いやりを添えながら、コミュニケーションをとろうとする姿勢や能力です。

英語　韓国語　中国語簡体　中国語繁体　日本語詳細説明

≪人物の部≫

＊一遍上人（鉄輪温泉の開発者）

○一遍上人は、鎌倉時代の 1239 年に生まれ、1276 年に念仏行脚の途中、鉄輪の地を訪れ荒れ狂う地獄地帯を沈め、蒸し湯、熱の湯、渋の湯をつくり、鉄輪に湯治を開いたと言われています。

＊式子内親王（非恋の歌人）

○父、後白河天皇崩御後、大炊御門殿を九条兼実に横領され、1997 年（建久８年）年の蔵人大夫橘兼仲夫妻の宣託時間によって取り戻すことが出来たが、流罪として別府に来たようです。豊後国主となりました。大友能直が 1196 年に下向し豊後に来た折りに、尼宮承如法として務めることになり、別府湾に昇る朝日を拝み鐘楼の鐘を突くのを朝の勤業として平穏な生活をしていたと伝えられています。

＊伊能忠敬

○西法寺から流川通りに出た交差点の南東の角に幕府の命により、日本地図作成の為の伊能忠敬の別府測量記念の標柱が建っており、ここが文化７年（1810）別府測量の基点となった場所です。

＊油屋熊八

○別府観光開発の先達。1911 年に「亀の井旅館」を開業し、バスに日本初の女性ガイドを乗せ「地獄めぐり」を開始。富士山に「山は富士　海は瀬戸内　湯は別府」の標柱

３．（別府）温泉の知識（魅力）

（１）別府温泉の特徴

＊別府の温泉

○別府には世界一位の源泉数、世界二位の湧出量、療養泉の 10 分類中８種の泉質があるなど、素晴らしい温泉群があります。

＊別府の地熱発電は？

○日本で最初の地熱発電は、1925 年に別府で行われました。今でも「湯けむり発電」という蒸気と温泉水を両方利用する別府独自の小規模な発電の取り組みが進んでいます。

＊杉乃井地熱発電所は？

○杉乃井地熱発電所は（杉乃井ホテル）は 1981 年 11 月に自家発電用地熱発電所として運転を開始しました。

＊別府温泉の歴史と湧出量、火山との関係は？

○別府温泉はおよそ５万年前に形成され、温泉が湧いていました。現在でも、１日５万トンの温泉が湧き出ており、別府の温泉は鶴見岳・伽藍岳という活火山の恩恵です。

＊別府温泉はいつ頃の水？

○別府の地下に分布する温泉水は平均して約 50 年で入れ替わっています。もとは 50 年前に降った雨水です。

＊別府はどんな質の温泉ですか？

○別府には地域ごとに特徴のある泉質の温泉があります。明礬の酸性硫黄泉、鉄輪の塩化物泉、別府駅周辺の炭酸水素塩泉のほか、別府には単純温泉、硫酸塩泉、含鉄泉など色々な種類があります。

（３）温泉入浴の効果

＊温泉入浴の体への効果は？

○保温効果が高く、基礎代謝を高めたり、ストレス発散をしたりする効果があり、関節リウマチ、気管支喘息、糖尿病、高血圧症、アトピー性皮膚炎、不眠症など様々な疾患に効果があります。

＊温泉の貧血への効果は？

○鉄分を含む含鉄泉を飲泉すれば、鉄欠乏性貧血には効果が期待できます。入浴するだけで貧血が良くなることはありません。

＊温泉入浴によるダイエット効果は？

○一時的には基礎代謝が上昇し体重が減少する場合がありますが、長期間にわたると効果は見られません。温泉プールで運動浴をすれば肥満症の治療効果は上がります。

＊温泉入浴は、朝と夜ではどちらの方が体に良い？

○体のリズムの関係で、早朝の入浴は、心筋梗塞や脳卒中の発症を助長する場合があるために避けるべきと言われています。

＊温泉治療とは湯治のこと？

○おおざっぱに言えば、そういうことです。ただし、湯治はほかに有効な治療手段が無かった時代の主たる治療手段として用いられました。温泉治療は、1 回の入浴で病気が治るということはなく連浴するので、一般に温泉療養という言い方をします。温泉療養は、これだけが主治療ということはなく、主に薬物治療などのほかの近代的治療の効果を補う形で用いられます。

＊XX様、今日から３泊のご予約をツインルームで伺っております。
こちらにお名前、ご住所、電話番号、メールアドレス、ご署名をお願いいたします。
パスポートのコピーをとってよろしいですか？
パスポートをお返しいたします

＊クレジットカードをお使いいただけます
クレジットカードの番号をいただいてよろしいですか？
クレジットカードをお返しいたします
このクレジットカードは使えないようです。
他のカードはお持ちですか？
現金のみのおとりあつかいです

＊お部屋にご案内いたします
何かございましたらこちらのお電話でフロントにご連絡ください

＊アイロンとアイロン台を持ってきてください
→あいにく今、在庫を切らしています
→準備できましたらお電話いたします

「おもてなし事典」アプリのバージョンアップ

目的

教材としての活用や、旅館・ホテル等の実際のおもてなし現場で有益なツールとなるようにバージョンアップを行うことを目的とし，掲載するコンテンツ、操作性を含め、全体的な充実を図る

2年次の応用科目で、授業に取り入れ、教材として活用し、現場でどのような使い方ができ、どのような課題があるかなどを実証しで充実する

内容

実証等により不足している言葉やフレーズの補充、英語・中国語・韓国語を母国語とする外国人の活用の利便性のための発音（音声）の取り込み、その他、地図や写真等の掲載をするなどによる利便性の機能を充実する

期待される活動指標(アウトプット)・成果目標及び成果実績(アウトカム)

・活動指標

→本事業は、“温泉コンシェルジュ”の養成・育成に向けたカリキュラムづくりを4ヶ年計画で実施しており、平成27年度はその三年目となる。

１年目（平成25年度）:“温泉コンシェルジュ”の養成・育成にはどのようなカリキュラムが適するのかを検討して、10科目の専門科目の設定と、それに関するカリキュラム、評価規準等の作成を行った。

２年目（平成26年度）:“温泉コンシェルジュ”に求められる1年生カリキュラムの実証授業により、その検証を行うと同時に、事業終盤には、フォーラムを開催し、“温泉コンシェルジュ”の活躍と必要性を全国に向けて周知した。また、“温泉コンシェルジュ”のに必要となる「おもてなし事典」を日本語、英語、中国語、韓国語で作成し、スマートフォンで操作できるようアプリ作成を行った。

３年目（平成27年度）：平成26年度に開発した2年生カリキュラムの実証授業を行い、そのフィードバックから課題・ノウハウを蓄積してとりまとめた上で、

「温泉コンシェルジュ」の育成と就労への連動のベースとなる資料集を作成して全国に提供する。

また、「温泉コンシェルジュ」の全国展開に必要となる「おもてなし事典」の基本機能を充実させると同時に、現場での操作性を高めるために外国人による母国語音声を付加するなど拡充させる。さらに、本事業の成果であると同時に、“温泉コンシェルジュ”の継続的な人材育成を図るため、

別府溝部学園短期大学食物栄養学科に“温泉コンシェルジュコース”を新設し、今年度においては20名を募集する。

４年目（平成28年度）以降：「温泉コンシェルジュ」の全国展開を本格稼働させる。温泉の泉質はその主成分によって大きく11に分類されるが、別府にはそのうちの10種が湧き出ることから、日本全国の温泉地域を支える“温泉コンシェルジュ”を別府で育成し、日本全国の温泉地で“温泉コンシェルジュ”が活躍する流れを創出する。さらには、全国各地の温泉地の温泉コンシェルジュ養成に関するアドバイスを行う。

温泉コンシェルジュ育成の成果を就労へ結びつけるために、温泉・観光・企業・団体等への周知・広報活動を行い、２年間での学びで成長した「温泉コンシェルジュ」の就労の開拓・開発の取組を行う。

③ モデルカリキュラム基準、達成度評価、教材等作成（目的、規模、実施体制等）

・モデルカリキュラム基準・達成度評価の作成

目的：平成26年度に実施した１年生科目と同様に、2年生科目が”標準モデルカリキュラム”としての目的を達成しているか評価とフィードバックを行い、その課題、ノウハウを蓄積し、全国的な標準モデルを１年生科目とともに提案する成果報告書としてとりまとめた上で全国に提供する。

規模：平成26年度に1年生の科目（5科目）を受講した別府溝部学園短期大学の学生（社会人学生含む）、及び、社会人への公開授業を120時間以上履修し、「履修証明書」を授与された社会人等評価規準：10項目の「知識」、9項目の「問題解決力」、3項目の「適正」に分け、さらに「適性」は5項目の「対関係能力」、4項目の「自己開発能力」、10項目の「専門性」に大別し、「とてもよく学べた＝◎」、「学べた＝〇」、「学べなかった＝△」で評価付けする。

実施方法：　2年生科目5科目を実証する。

概要　：アンケート等により得られた実証授業に対する課題、問題点、成果を分析する。

・「おもてなし事典」のバージョンアップに必要な用語、会話の追加や機能の向上

目的：教材としての活用や、旅館・ホテル等の実際のおもてなし現場で有益なツールとなるようにバージョンアップを行う。

規模：掲載するコンテンツ、操作性を含め、全体的な充実を図る。

概要：平成26年度にスマートフォン向けアプリ「おもてなし事典」を開発したが、実証により不足している言葉やフレーズを確認し、その補完を図る。また、昨年度受講生から改善要望が多かった、英語、中国語、韓国語を母国語とする外国人から母国語による会話・発音の取り込みを図る。

・社会人等向け学習環境の整備

1年生、2年生向け専門科目、全10科目の「e－ラーニング」等の教材を開発し、社会人等の学び直しの学習環境を整備する。そのため、1年生科目と同様に3科目（1科目15コマ）と、2科目のインターンシップ授業を映像として収録する。

３年次（平成２７年度）の「学生の構成と単位認定」計画

１．短期大学生「食物栄養科」に「温泉コンシェルジュ」コースを新設

（社会人学生を含む２０名）。

・「温泉コンシェルジュ」コースの教育課程（短大としての６２単位以上）の履修

・但し、「温泉コンシェルジュ」資格を認定する場合は「温泉コンシェルジュ」授業の１０科目（２０単位）は必須

２．社会人の学び直しとして公開

（１）専門科目は社会人への公開

・「単位履修制度」により公開し、各学年の１２０時間以上の履修を認証する。

※別府市等の「認証制度」と「雇用の創出」制度を確立する方向で検討している。

（２）１年生の基礎科目（基本：前期）・・別途資料参照

①５科目を公開する。但し「おもてなし演習」のみの受講は認めない。

②有料

（３）２年生の応用科目（基本：後期）　・・別途資料参照

①５科目を公開する。

・但し、１年生の基礎科目４科目以上（「おもてなし演習」は含まない）を履修している事。

・但し「温泉コンシェルジュ演習Ⅰ・Ⅱ」のみの受講は認めない。

②検証授業（H２７年度文科省事業申請予定）のために無料とする（予定）

これまでの取組

1．1年次：平成25年度

①温泉コンシェルジュ専門科目のカリキュラム作成

必要な学び	科目名		到達目標（別府温泉コンシェルジュとしての専門性）
コンシェルジュの基礎知識	温泉コンシェルジュ基礎	講義	温泉コンシェルジュに求められるものを理解し、別府の魅力を提供する総合的な接客サービスができる。
別府に関する基礎知識	別府の歴史と文化	講義	別府の歴史・人物・文化・自然に関する一定の知識を持ち、各種資料による別府の紹介ができる。
別府に関する基礎知識	まちづくりと景観	講義	別府のまちづくりと景観について一定の知識を持ち、他の地域と比較した特色を学ぶ。
温泉の利用に関する学び	温泉学	講義	温泉の泉質や効能等の基礎知識を学ぶとともに、温泉を活用した産業、世界の温泉情報を説明できる。
コンシェルジュの基礎知識	おもてなし演習	演習	宿泊施設における職能別の職務を体験し、宿泊施設の業務と、業務ごとのおもてなしの心を学ぶ
温泉の利用に関する学び	別府で学ぶ温泉の基礎	講義	温泉の様々な利用を知り、別府における温泉産業、サービス、情報発信等を説明できる。
別府温泉と観光の街づくりの学び	温泉コンシェルジュ実習Ⅰ	演習	別府市内の地理や交通手段を学び、温泉を活用した・PRするイベントや温泉体験等の別府案内ができる。
別府温泉と観光の街づくりの学び	温泉コンシェルジュ実習Ⅱ	演習	別府温泉の観光・健康・医療・食等のコンシェルジュとしての総合的な企画プログラムを提案できる。
温泉と健康・医療の学ぶ	温泉医療療養指導	講義	温泉による健康・医療について、温泉の様々な効能と泉質の関係を説明できる。
温泉と健康・医療の学ぶ	温泉トレーニング	講義	温泉を活用した健康トレーニングや温泉との関係に限らず広く癒しや健康増進のトレーニングプログラムを説明できる。

②「温泉コンシェルジュ」ガイドブックの作成

2．2年次：平成26年度

①1年生の基礎科目の検証授業と授業DVDの作成
②「おもてなし事典」（アプリの作成）
③「温泉コンシェルジュ」の啓発事業（シンポジウム・チラシ等）
④「温泉コンシェルジュ」に関する意識調査

平成27年度「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進事業」に係る
おんせん県おおいた・別府型ドリームプロジェクト

平成27年度事業計画表

NO	大項目	事業名	事業内容	時期
1	会議	①中央委員会	本事業計画に対する進捗管理を図るために委員15名、全3回開催する。	第一回目：10月1日（木） 第二回目：12月～1月予定 第三回目：2月下旬予定
		②カリキュラム開発実証委員会	本事業で実施する2年生科目の実証授業やアンケート調査結果等を踏まえ、2年生科目の開発を図るために、2年生科目担当者7名で、全3回開催する	第一回目：10月1日（木） 第二回目：12月～1月予定 第三回目：2月予定

2	モデルカリキュラム基準、達成度評価、教材等作成	①モデルカリキュラム基準・達成度評価の作成	目的:平成26年度に実施した1年生科目と同様に、2年生科目が"標準モデルカリキュラム"としての目的を達成しているか評価とフィードバックを行い、その課題、ノウハウを蓄積し、全国的な標準モデルを1年生科目とともに提案する成果報告書としてとりまとめた上で全国に提供する。 規模:平成26年度に1年生の科目(5科目)を受講した別府溝部学園短期大学の学生(社会人学生含む)、及び、社会人への公開授業を120時間以上履修し、「履修証明書」を授与された社会人等 評価規準:10項目の「知識」、9項目の「問題解決力」、3項目の「適正」に分け、さらに「適性」は5項目の「対関係能力」、4項目の「自己開発能力」、10項目の「専門性」に大別し、「とてもよく学べた=◎」、「学べた=○」、「学べなかった=△」で評価付けする。 実施方法: 2年生科目5科目を実証する。 概要 :授業検証やアンケート等により得られたカリキュラムの課題、問題点、成果を分析し、全国の温泉地で活用できる教育プログラムの標準モデルを作成する。	2月
		②「おもてなし事典」のバージョンアップに必要な用語、会話の追加や機能の向上	目的:教材としての活用や、旅館・ホテル等の実際のおもてなし現場で有益なツールとなるようにバージョンアップを行う。 規模:掲載するコンテンツ、操作性を含め、全体的な充実を図る。 概要:平成26年度にスマートフォン向けアプリ「おもてなし事典」を開発したが、実証により不足している言葉やフレーズを確認し、その補完を図る。また、昨年度受講生から改善要望が多かった、英語、中国語、韓国語を母国語とする外国人から母国語による会話・発音の取り込みを図る。	2月
		③社会人等向け学習環境の整備 ※2年生科目のDVD作成	1年生、2年生向け専門科目、全10科目の「e-ラーニング」等の教材を開発し、社会人等の学び直しの学習環境を整備する。そのため、1年生科目に加えて2年生科目の一部(再利用予定の科目とコマ)を収録する。	10～2月



♨温泉コンシェルジュ公開講座

平成２６年度文部科学省委託事業「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進事業」

温泉コンシェルジュコースの概要

♨温泉の知識を深めたい方
♨旅館・ホテル業に関わっている方
♨別府の魅力を多面的に見つけたい方

温泉に関する知識，関連業界や他のコンシェルジュとのネットワークづくり，接客・おもてなしの作法など，温泉をベースとした総合世話係としての素養を身につけていくための専門科目です。

公開講座の受講生は本学の科目等履修生となり，正規学生と同じ内容に取り組んでいただきます。
様々な分野の専門講師による講義のほか，市内地や宿泊施設を使った演習も予定しています。

10科目すべての履修も，選択した数科目のみの履修も可能です。

基礎科目

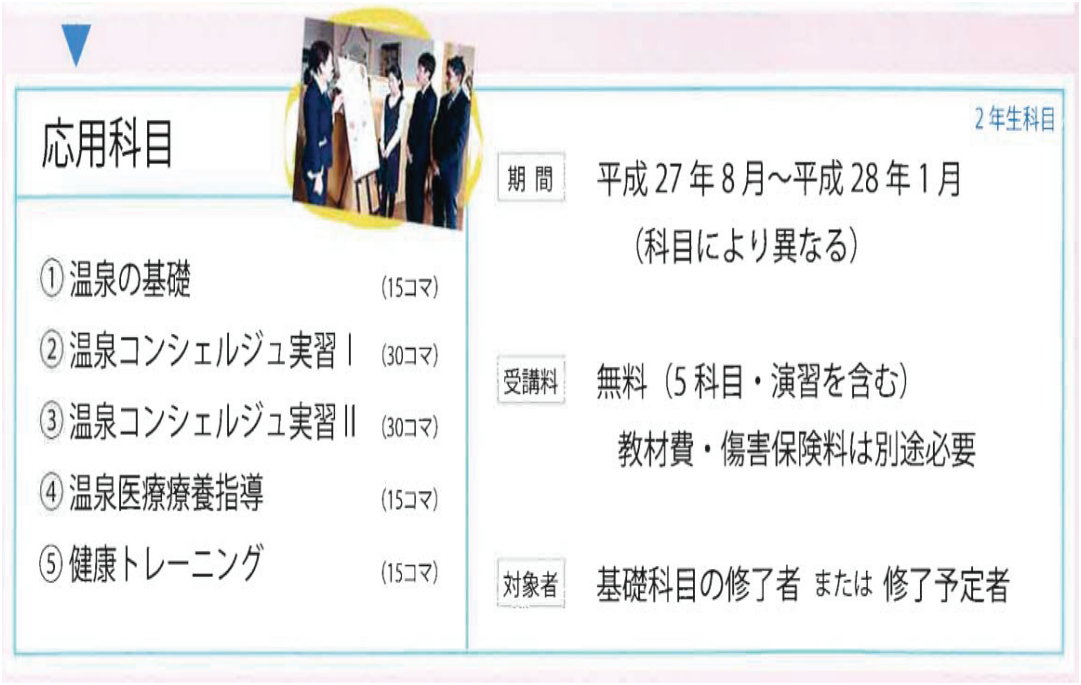


1年生科目

①温泉コンシェルジュ基礎	(15コマ)
②別府の歴史と発展	(15コマ)
③まちづくりと景観	(15コマ)
④温泉学	(15コマ)
⑤おもてなし演習	(30コマ)

期間　平成27年4月～9月
（科目により異なる）

受講料　98,000円（5科目・演習を含む）
教材費・傷害保険料は別途必要
※平成28年度以降は，選考料5,000円・
登録料30,000円を別途いただきます。



3	実証等	①2年生向けに作成したカリキュラムの実証	目的:2年生向けに作成したカリキュラムの実証を通して、授業評価及び改善を行う。 対象:平成26年度に1年生の科目(5科目)を受講した別府溝部学園短期大学の学生(社会人学生含む)、及び、社会人への公開授業を120時間以上履修し、「履修証明書」を授与された社会人、平成27年度前期に所定の1年生科目を履修した者等。 評価規準:10項目の「知識」、9項目の「問題解決力」、3項目の「適正」に分け、さらに「適性」は5項目の「対人関係能力」、4項目の「自己開発能力」、10項目の「専門性」に大別し、「とてもよく学べた=◎」、「学べた=○」、「学べなかった=△」で評価付けする。	10~2月

4	「女性の学び直し」事業	「別府溝部学園短期大学オープンカレッジ（公開講座）」の開講	“女性の学び直し”を主な目的とした公開講座を実施する。女性の新たな就労の職種として「温泉コンシェルジュ」を知ってもらうため、3つのテーマについての講座を公開して学びなおしを促し、普段は家庭にいる女性等に向けての新たな学びの場と、就労への動機づけの機会を提供する。 テーマ①温泉コンシェルジュに関する講座（3講座） テーマ②別府の歴史や発展、景観、温泉の分布に関する講座（3講座） テーマ③温泉の成分や効能、入浴等に関する講座（3講座） ※3回講座・1日1テーマで計150分（50分×3講座）	1~2月
		別府の観光産業に関わる人々に向けた温泉コンシェルジュの有用性を考えるセミナー	目的：別府市を中心とした大分県内の観光産業に関わる経営者等に向けて、本事業を通じた教育による女性と若者を活用した地域活性化の取組みを発信するためのセミナーを2回開催する。 対象：別府市商工会議所会員及び別府市旅館ホテル組合組合員を中心とした大分県内の観光産業に関わる経営者等 規模：本事業で中核的な役割を担う委員から、本事業を通じて、教育を通した人づくりと地域活性化に結びついていくことの重要性についてセミナーを行う。また先進的な実践事例を持つ福井県福井市と沖縄県那覇市から講師を招聘し、その重要性について熱議する。	12月~1月



□１月２４日（日）【　温泉コンシェルジュ入門　】

１限目　　９：００～９：５０「温泉コンシェルジュへの 1st ステップ」（担当：中川忠宣　先生）
温泉コンシェルジュに求められる知識や技術を説明します。
２限目　１０：００～１０：５０「別府今昔物語」（担当：恒松　栖　先生）
別府地域の自然や文化、温泉等に関わる歴史を紹介します。
３限目　１１：００～１１：５０「私の温泉の楽しみ方」（担当：土谷雄一　先生）
別府温泉の泉質や特徴を中心に、温泉名人お勧めの別府温泉の楽しみ方を紹介します。


現場演習の様子

□２月７日（日）　【　溢れる、温泉の可能性　】

１限目　　９：００～９：５０「温泉と別府」（担当：宮崎博文　先生）
別府と温泉の関係について自然科学の視点から説明します。
２限目　１０：００～１０：５０「温泉と健康」（担当：前田豊樹　先生）
温泉と健康の関係について医師の視点から説明します。
３限目　１１：００～１１：５０「健康トレーニング」（担当：住田　実　先生）
簡単にできる健康トレーニングなどを紹介します。


別府市内の温泉

□２月１３日（土）【　温泉コンシェルジュがめざすもの（参加型）　】

１～３限目　９：００～１２：００
（担当：安達　美和子　先生、温泉コンシェルジュコース０・１期生）
本養成講座で学んでいる社会人受講生の成果発表をします。発表後は参加者の皆さんも交えて「別府の楽しみ方の提案」をグループワークで考えます。





13:30　受付
14:00　開会行事
14:10　あいさつ　　長野　恭紘　　別府市長
トークセッション
ゲストスピーカー
事例発表: 沖縄県に必要とされている”自立考動型人材”育成の取組と実践
　　添石　幸伸　　九州地区市町村教育委員会連合会会長
　　（元那覇商工会議所青年部会長）
　　神部　　愛　　有限会社オーシャン・トゥエンティワン キャリア教育事業担当

スピーカー
　　長野　恭紘　　別府市長
　　西田　陽一　　つるみ観光株式会社別府温泉 ホテル白菊代表取締役社長
　　鶴田　浩一郎　おんせん県おおいた別府型ドリームプロジェクト中央委員
　　NPO法人 ハットウ・オンパク代表理事

モデレーター
　　生重 幸恵　　特定非営利活動法人 スクール・アドバイス・ネットワーク代表理事
　　一般社団法人 キャリア教育コーディネーターネットワーク協議会代表理事

フロアーファシリテーター
　　中川　忠宣　　おんせん県おおいた別府型ドリームプロジェクト事業推進プロデューサー
　　大分大学高等教育開発センター教授

会場のみなさまと熟議いたします

主催　おんせん県おおいた・別府型ドリームプロジェクト

産学官による人材育成の今後の展望と課題

～展望～

①育った温泉コンシェルジュが、別府を活性化させること
②全国の温泉地に温泉コンシェルジュが育ち、活躍すること

～課題～

1．２年間では「温泉コンシェルジュ」としての「卵が孵化した」レベル。

↓

本物の「温泉コンシェルジュ」の育成システムの検討

2. 入学生の確保のための募集方法
～「温泉コンシェルジュ」の認証と就職への繋がりシステムの構築～

3. 女性や若年層の新しい職業としての普及
～社会人受講者の確保と就労への繋がり～

↓

関係者のニーズを基にした支援・協働システムの検討

ご静聴ありがとうございました。

